

成果報告書 1 : 海洋教育のデザイン

- 1. 学校名 喜界町立早町小学校
- 2. 活動テーマ名 受け継ごう！未来へつなげる喜界島

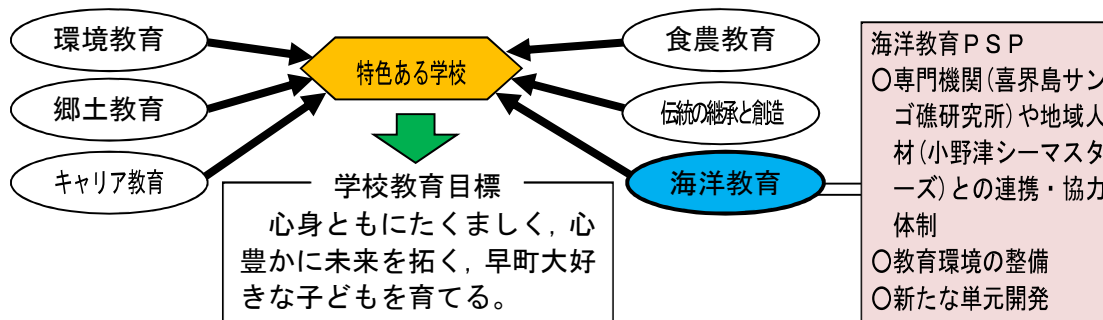
3. 実践の概要・ねらい

学校におけるサンゴの飼育・観察・記録，特定非営利活動法人喜界島サンゴ礁科学研究所の協力を仰いでの講義や周りの海の調査活動，宿泊学習における魚捌き体験，海と人々の暮らしとのかかわりを調べるなどの活動を通して，喜界島の海に対する理解と愛着を深め，これからの喜界島の海と自分たちとのかかわり方について話し合ったり，喜界島の海の保全について自分たちにできることを考え行動したりしようとする意欲や態度を育て，行動していくために必要な資質や能力を培う。

4. 実践計画

(1) 概要

専門機関や地域人材との連携，喜界島を取り巻く「海」という教育素材を生かした「海洋教育」を推進することで，これまで取り組んできた地域の教育力を生かした特色ある学校づくりのより一層の充実を図る。



(2) 推進計画・推進体制

環境等整備関係	体験活動等関係
H28.10 サンゴ水槽の設置 ※喜界島サンゴ礁科学研究所（以下，「サンゴ研」）からの借用	H29. 2 宿泊学習における海洋教室等のプランニング ※ サンゴ研，小野津シーマスターズとの打ち合わせ
H28.11 サンゴの水槽への投入	H29. 5 海洋教室準備
H29. 1 サンゴ研による職員へのサンゴの飼育方法のレクチャー	H29. 6 宿泊学習での海洋教室，魚捌き体験の実施
H29. 2 サンゴ水槽へのヒーター設置	H29. 7 サンゴ研による出前授業（5年）サンゴの飼育・観察開始
H29. 4 飼育・観察用品の整備	H29.10 文化祭による飼育・観察状況の発表
H29. 5 海洋教室用品の整備	H30. 2 飼育・観察レポートの作成・発表
H29. 9 観察記録用PC・モニタの設置 飼育・観察用品の整備	

5. 今年度の実践

(1) 実践・取組の実際

ア 環境整備について

サンゴ研の協力を受け，サンゴの飼育・観察や海洋教室に必要な物品等を整備した。

(ア) サンゴ水槽の設置・整備(H28. 10～)

- サンゴ研の山崎敦子所長（北海道大学理学研究院特任助教）の協力をいただき，H29年度からの飼育・観察に向け，H28年10月に児童玄関ロビーにサンゴ水槽(W60×T45×H30)を設置した。
- 2週間ほど置き，水槽内の水質や底土を安定させた後，サンゴを数体水槽内に投入し，飼育を開始した。



(1) サンゴ水槽を中心とした飼育・観察スペースの整備

- 名称を「早町小かがやきサンゴラボ」とした。
- サンゴの観察・記録に使用する用具やサンゴや海洋生物に関する書籍等の整備を行った。
- データ収集・整理用のパソコンを整備した。
- 観察カメラの映像や観察・記録の成果等を見せるモニタの設置し、学校へ来られる保護者や地域の方々や他の学年の子どもたちに観察・記録の成果を見せることができるようにしている。



(2) 活動・取組について

今年度は、宿泊学習や5年生の「総合的な学習の時間」における活動内容に海洋教育の要素を入れ込み、大きく見直しを図ることによって、本校の特色ある教育活動の幅が大きく広がった。

(7) 海洋教室(宿泊学習内の活動)

- 喜界島の小野津海岸における海洋実地学習（1日目）
 - ・ シュノーケリングを通しての海中観察や岩場での海洋生物採集
 - ・ サンゴ研の先生方を講師に迎えて実施



○ 魚捌き体験（1日目）

- ・ 小野津シーマスターズの協力で実施



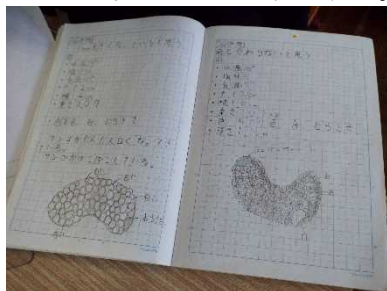
○ 海洋生物図鑑作成（2日目）

- ・ サンゴ研の活動ルームで実施した。
- ・ サンゴ研の先生方の指導の下、1日目の海洋実地学習で観察したり採集したりした海洋生物について、図鑑などを参考に海洋生物図鑑を作成した。



(イ) サンゴの観察・記録（5年・総合的な学習の時間）

- サンゴ水槽のサンゴの観察・記録の実施（約2週間おき）
- 観察・記録の際には、サンゴ研の先生方も可能な限り参加 ※ 出前授業も3回実施
- 記録は自分の観察ノートとパソコン内のシートに記録し、データを蓄積
- 観察・記録の結果は、新聞形式やレポート形式など自分なりの方法でまとめ、発表
⇒ 作成物は、「さんごラボ」で展示し、来年度取り組む児童が参考にできるようにする。



(ウ) 地域への発信

- 早町小学校文化祭において、5年生がサンゴについて観察した結果や調べたことなどをまとめて、プレゼンテーションやクイズ形式での発表



【参観者の言葉】～文化祭アンケートより～

- サンゴ研究の学習は、子どもたちの世界を広い世界に広げてくれることでしょうか。私たちの小学校の頃と比べて、様々な活動ができることをうらやましく思います。

(イ) 学習活動の見直し

- 「総合的な学習の時間」の学習活動の見直し（5年）
- 幅広い郷土の環境や人材を生かした特色ある教育課程の作成

月	学習活動	月	学習活動
4月	オリエンテーション①	4月	オリエンテーション①
5月	国際・郷土・情報 修学旅行(宿泊学習)を行う⑮	5月	国際・郷土・情報 修学旅行(宿泊学習)を行う⑮
6月		6月	
7月	受け継ぐ未来へつなげる喜界島⑯ (伝統・文化)	7月	受け継ぐ未来へつなげる喜界島⑯ (伝統・文化)
9月		9月	
10月		10月	
11月	・時期的な問題で1月までの活動は難しい。 ・活動を縦の系列で見た場合、系統的な課題がある。	11月	・学年の活動の中核と位置付ける。
12月		12月	
1月		1月	
2月	・そこまでの時間を要せずに実施可能	2月	
3月		3月	

核となる学習活動が明確でなく、学びの連続性を感じにくい。

地域の方と触れ合おう⑳ (福祉・キャリア)

おいとばいば喜界島 (食育・生産・環境)

受け継ぐ未来へつなげる喜界島(すこ)㉑ (海洋・環境・郷土)

(オ) 喜界高等学校生徒との交流

- 3月中旬に実施した。
- 喜界高等学校で来年度に海洋教育コースで学ぶ生徒が本校を訪問し、本校での取組の説明を聞く活動を行った。また、観察・記録をしたり、レポートをまとめたりしている5年生の様子を参観した。



(2) 実践の成果

- ・ 海洋教育PSPの助成により、海洋教育の教育環境が飛躍的に整った。
- ・ 子どもたちの理科に対する興味・関心を喚起できる環境整備が整ったことにより、子どもたちの理科に対する学習意欲が高まった。
⇒ 夏休みの「理科に関する研究記録」へ取り組む児童が大幅に増加し、地区審査まで上がった児童も前年度の2倍(8名)となった。そのうちの4名は県審査まで上がり、1名が県知事賞、1名が特選、2名が入選を受賞した。
⇒ 学校としても、地区の審査会で学校賞(奨励賞)を受賞した。
- ・ 海洋教育を取り入れることにより、これまで以上に幅広い郷土の環境や人材を生かした学習活動を計画することができるようになった。
- ・ 学校評価委員会等でも取組に対して、とても良い評価をいただいた。

(3) 次年度への課題

- ・ 今年度は海洋教室を宿泊学習の中で実施したが、次年度は宿泊学習がない年度となるので、宿泊学習がない年度用の教育課程を整備していく必要がある。
- ・ 海洋教育PSPについては、次年度も採択になる予定であるが、水槽の増設やタブレットPCの整備など、「早町小かがやきサンゴラボ」の更なる学習環境整備を進めていく考えである。
- ・ 同じく海洋教育PSPに取り組んでいる喜界町の他の3校(喜界小・喜界中・喜界高校)との連携・協力を充実させ、海洋教育における内容的な連携・協力、人的な連携・協力を活性化し、それぞれの活動が「主体的・対話的な学び」となっていくようにしたい。

6. 主な連携機関及び内容

(1) 主な連携機関

特定非営利活動法人喜界島サンゴ礁科学研究所

(2) 連携の内容

- ・ サンゴの飼育・観察・記録等に関する技術的な指導、海洋教室、関連施設見学、出前授業
飼育・観察に係る物品等の助言

(3) 喜界4校における海洋教育PSP連携推進のイメージ

